

KiKiの広場

2015年 3月 1日

cafe NO.53
KiKi



ヒストリア字部と cafe KiKi が生まれて、5年目の春を迎えようとしています。おかげさまで「ん十代」ですましていたスタッフの年も、「ん」が変わってしまい、あまりおおっぴらに言えなくなりました。(^ _ ^)

まっそれはさておき、ヒストリア字部と cafe KiKi にとっても新しい季節の始まりです。初心を忘れず、大切にしていることを大切に、当たり前前を当たり前前にできることを目指し、「継続は力なり」をモットーにみんな頑張っていきたいと思います。

3月の予定

10日(火)	休館日
毎日曜日	定休日
29日(日)	臨時営業



「今日のケーキ」…「ストロベリーケーキ」350円

しっとり感のあるスポンジに、甘さを控えたいちごクリームをはさみ、ダイスカットのいちご果肉をトッピング。新鮮ないちごと、たっぷりの生クリームを味わいながら、季節感もお楽しみください。



今月のお気に入り…「春の音・春の匂い・春の色の絵本」

～「ほとんほとんはなんのおと」「はなをくくん」「はるがきた」「はるはゆらゆら」「おなべおなべにえたかな」 などなど～

いろいろな角度から春を楽しんでみたいと思います。「ほとんほとんはなんのおと」は、おかあさんぐまの優しさに包まれて、待ち遠しい春の足音に聞き耳を立てているかわいらしいこぐまたちのお話。眠っていた動物たちが目を覚まして、いっせいにあるところをめざしてかけていく「はなをくくん」は、春を待ち焦がれる動物たちの想いが伝わってきて温かい気持ちになります。そして、みなさんにとって春の色とは？「どろんこハリー」の著者コンビの「はるがきた」は、なかなかやってこない春にしびれをきらして、それじゃあって感じて、自分たちで春にしちゃうというお話です。淡い黄・水・緑の3色がとても美しく、明るく思いっきりポジティブに春を表しています。春って、やっぱり嬉しい季節なんだなってつくづく思います。



今月の本棚…「おひなさまの絵本」

～「たまごからうまれた女の子」「のはらのおひなさま」「ももこのひなまつり」「もりのひなまつり」 などなど ～

「たまごからうまれた女の子」は、長崎地方に伝わるひなまつりの由来になったお話だそうです。50個の卵から50人の女の子が生まれるという、なんとも奇想天外な不思議なお話です。最初は「卵？」「50人？」とびっくりしますが、「親は子を想い、子は親を想う」という、ちょっぴり切なくて優しさにあふれた絵本です。



ほっとフレイク

3月後半に、「ヒストリア字部がアートになる」というテーマで、5周年記念のイベントがいろいろと企画されています。まず21日(土)は、「cafe KiKi」の名前の生みの親角野栄子さんの講演が、14時から交流ホールであります。これは「ときわ動物園オープン記念」も兼ねていて、「動物は魔女が好き」という題でお話されます。角野さん自身が素敵な「魔女」という感じですが、動物と魔女、いったいどんなお話が飛び出してくるのか、わくわくしてきます。



また、28日(土)29日(日)には、イベントホールで「アートな絵本展」が開催されます。「赤ちゃん絵本から大人も読める絵本まで…」「ロングセラーから新刊まで」と、たくさんの絵本たちがやってきます。「こどもの広場」の横山真佐子さんによる「読み聞かせ」や「絵本相談室」など、楽しいイベントがもりだくさんです。

2階の交流ホールでは、日頃コミカレを利用されている、水彩画や仏画などの展示もあります。

いつもは定休日ですが、29日(日)はKiKiも臨時営業します。

5周年の節目に、アートに変身する「ヒストリア字部」、どうぞ、お楽しみに！

